

「つながり」こそ大切

身延町立身延中学校

身延町は町の真ん中を富士川が流れ、山々に囲まれた自然豊かな町です。本校は6年前に町内4つの中学校が統合し、身延町全域から生徒が通う学校です。身延町では、修学旅行費全額負担、給食費無償など子育て支援に手厚く、様々な面で教育に力を入れてくれています。2年後の開校に向けて地元の木材を活用した木造の新校舎の建築も着々と進められているところです。

校訓『自立 協働 創造』の下、「自ら学び心豊かなたくましい生徒の育成」を学校教育目標としていますが、それを具現化する『身延中スタンダード』というものを新生身延中学校の柱としてつくり、つないできています。3つの場面に分け『学校生活スタンダード』では「自分の行動に責任を持つ」「話をきちんと聴く」「あいさつをする」など。『授業スタンダード』では「わからないところはわかる人に遠慮しないで訊く」「人の意見を尊重する」など。『家庭生活スタンダード』では「学校であったことを家の人に伝える」「スマホは必要な場合以外は22時以降使わない」など。『チーム身延中』の一員として全校で意識して取り組んでいます。



コロナ禍の中、またSNSなどで簡単に顔も知らない人となつなされる現代社会だからこそ、「つながり」が大切と、生徒会がスローガンに掲げ、全校で合い言葉として活動してきました。感染症対策を行いながら、縦割り集団での活動を取り入れた行事だけではなく、日常の活動に「ペアトーク」や「縦割り清掃」また学習についても「自主学交換会」を異学年集団で行い、刺激し合い、理解し合い、協力し合い、それぞれが居場所を広げながら、縦横のつながりを大切にしたい温かい身延中学校をつくってきました。まとめの生徒総会ではアンケートや反省から「みんなが居心地のよい環境にしたいと思っているのに、悪口などそうでないことも起きてしまうのはなぜなんだろう」と全校生徒に投げかけがあり、その場で話し合っって深めるようなことにも取り組みました。



道路を挟んで向かい側に身延高校があります。県の指定を受け、平成31年度から南部中学校を含めて「連携型中高一貫教育」に取り組んでいます。12の事業があり、数学や英語で中高の教員がお互いの授業をサポートする「授業アシスト」、夏休みに高校の先生の授業を受けられる「サマーセミナー」、高校生の将来の夢や進路に関わる学習から学ぶ「キャリアセミナー」、学園祭の演劇で高校の専門の先生からの「演劇指導」、中高の美術作品や文化作品を合同展示する「ライフミュージアム」、高校生とともに練習し指導を受けられる「部活動合同練習」などを行っています。中学生だけ、中学校の教師だけでは得られない、多様な視点が得られ、またすぐ近い未来の自分たちの姿をイメージしながら、進路や生き方を考えられるなど有用なものとなっています。

伝統とつながり、仲間とつながり、高校とつながり、いろいろなつながりを感じながら、身延中学校7年目がスタートしています。

(身延町立身延中学校長 今村弘樹)